

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和7年 3月 1日

事業所名 キッズスタジオ オリーブの木

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習時間は、別室で机の位置やパーテーション等工夫して集中して取り組める場所を確保している。	引き続き、課題を終えた子どもが発散できる場と静かに集中できる学習時間を確保していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準人数の職員以外に送迎スタッフも増やし、待機スタッフを充実させる。	野外活動の時は、スタッフの人員を増やしていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		トイレのみ段差があるので、今後スロープにするのか検討中。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎日のスタッフ会議を行っている。チェックリストを用いて定期的な会議も行い改善策を考え実行し検討する場を作っている。	定期的に会議を行い、スタッフが全員参加できるように日程調整を行っていく。出席できなかったスタッフには、議事録、又はLINEなどで会議で決まったことを共有するようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートに書かれた要望や意向を把握し、反映した活動になるよう計画し実行しています。	保護者に対する発信をより積極的に増やしていけるようにSNSなど活用して発信している。会報誌も発行していく。ホームページもリニューアルして情報共有を深めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPと事業所に提示している。	公開した際には、保護者にLINEもしくはSNSにて通知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部講師による研修を行い、評価結果を業務改善につなげている。	外部講師による研修を役職に応じて計画を立てている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員の資質向上のために、事業所内では定例研修(月1回)を行い、チェックリストを用いて評価をしている。事業所外の研修については、報告会も行っている。	研修ソフトを導入した。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どものニーズを聞き取り、相談専門員が作成するサービス利用計画書を把握し、検討会議を行い本人主体の支援計画書を作成している。日々の様子、変化を細かく観察している。	引き続き、本人主体の個別支援計画、保護者の願いや希望、内容のある個別支援計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントの研修を行い、標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		子ども達の様子を見ながら常勤スタッフで毎日ミーティングを行い立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子ども達の成長につながるように段階に応じて活動プログラムを組んでいる。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		子どもの状況に応じて平日は、負担のない範囲での支援を行い、休日は体力作り、仲間作りなどの課題を設定するなどの細かい支援をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの特性を把握し、集団活動に参加が難しい子どもは個別活動で対応し、徐々に集団活動に参加できるように計画を作成し実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のスタッフ会議でその日に行う支援内容や役割分担を確認している。支援時間から来られる職員にはLINEツールを活用して伝達している。	引き続き、現在の方法で全スタッフと情報共有していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		スタッフで振り返り、報告会を行い次に生かせるように改善策を考えている。	その日のうちに振り返りが出来ない場合は、LINEや掲示板を活用して支援の振り返りや気付いた点等を共有していき、次の日の会議で再確認する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日活動後に支援記録を客観的にとり、次回の支援時に生かせるように心がけている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		更新の一か月前までにはモニタリングを行い、本人主体の計画になっているか目標や支援方法を見直して作成している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		自立支援、日常生活の充実の為の活動、創作活動、余暇の提供は組み合わせ支援を行っている。 基本活動の成果を発揮する場として、盲導犬チャリティコンサート、広地区合唱祭、レガレミュージックフェスティバル等に参加した。	引き続き、基本活動を複数組み合わせたイベントを行っていく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		利用者によく関わりがあり、把握している支援員、管理者、児発管が出席するようにしている。	今後も積極的に出席していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		通常は、相談専門員や保護者から学校での様子や行事予定を教えてもらっているが、トラブル発生した場合は、直接学校と連携してトラブルに対応する。 ケース会議で情報共有をしている。 送迎時の対応等はマニュアルを伝え、フローチャートを作成して実行している。	送迎の漏れ、遅れが発生したことがあった為、その後、漏れることがないように送迎スタッフと二重連絡を取り合うことにしている。到着が予定よりも10分以上遅れる場合は、学校、保護者に必ず連絡をする。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	医療的ケアが必要な子どもに対応する設備が整っていない為、受け入れは困難。	
保護者への説明	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	相談専門員を通して情報共有している。	要望があれば対応する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	まだそういった利用者がいないが、これから学年が上がり、障害福祉サービスへの移行があった場合、支援内容の情報を提供する。	いつでも支援内容の情報を提供できるように資料作りをしておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関と連携し、助言を頂いている。	専門家による研修を計画して支援に生かせるようにする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		子ども食堂の参加や、障がいのない子どもも出演されるイベントに参加し交流することができている。 公園や公共施設で交流する機会がある。	地域交流の活動を可能な限り広げ、継続していく。
	27	自立支援協議会等へ積極的に参加している	○		可能な限り参加した。	引き続き、日程調整し参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日常は、LINEを活用し活動報告と写真、動画を送っている。何か課題が見られた時は直接保護者に電話をして情報共有している。また、保護者が来所された時や送迎時に活動内容を伝達し、発達の状況や課題について共通理解を持つように努めている。	引き続き、連携を図っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者から個別相談を受け付けており、希望がある時に行っている。	保護者の対応力の向上を図る為、外部から専門講師を招き、定期的な講習を行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		入所する際、契約時に丁寧に説明を行っている。	継続。会報誌を発行し繰り返し、支援内容等伝えていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者から電話やLINEで悩み事の連絡が入った時には関わりの深い職員が対応している。 日を改めて訪問、又は来所していただき必要な助言と支援を行っている。	継続。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コンサートやワンデーダイニング等のイベントに招待し、保護者間の連携を支援している。保護者向けの食育セミナーを開催し、交流の場と困り感を解消するきっかけ作りができた。	保護者会の回数を増やせるように努める。会報誌を作成し、保護者懇談会のお知らせも掲載していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情窓口を設置している。保護者から苦情が入った時は、スタッフは速やかに窓口で報告し、担当者から直接保護者対応を行っている。 訪問して対応することもある。	来年度は更にスタッフを増やし、正確に報告できるよう日頃から子どもの見守りを強化していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
責 任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		オリーブレポードを送り、オリーブでの活動を共有できるように動画編集して保護者へ動画を送っている。また行事予定やセミナーの案内等発信している。	引き続き、LINEで発信している。 オリーブ通信を発信する予定。
	35	個人情報に十分注意している	○		保護者に活動報告で写真や動画を送ったものを許可なくSNSなどに載せないように伝えている。個人情報は、鍵付きロッカーにて保管し、児童発達支援管理責任者が管理を行っている。	ホームページ、SNSに活動を紹介している。写真を使う時は、モザイク加工したものを使用している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		スタッフ間で子どもの特性を情報共有して、円滑な意思の疎通や情報伝達を図っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		発表会やイベントを開催し、地域住民にご参加頂いた。	引き続き、模擬店、音楽発表会などのイベントを行う。新たに子どもの作品の展覧会なども予定していく。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		研修を行い、策定している。スタッフに周知している。 保護者には、LINEで伝達し周知している。	取り組んだことをより分かりやすく伝えるように、見える化にしていく。保護者にはLINEだけでなく、ホームページ、会報誌に掲載し周知を徹底す
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		事前に避難訓練の方法を伝え、1週間続け行った。 防災センターに行って必要な訓練を学んだ。 救急救命士を講師に招き、講習を受けた。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		事業所内でも研修の際に、適切な対応に繋げる為、ワークシートを作成し、グループワークを行っている。 事業所外の研修にも参加している。	引き続き、研修を行い、日々の支援、関わりを見直していく。更にスタッフの知識を深めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束についての責任者を決定し、責任者は研修を受け、事業所内研修を行い周知徹底している。 保護者には、契約時に丁寧に説明している。やむを得ず身体拘束が必要になった子どもについては、具体的な内容を子どもと保護者に伝え、理解を得た上で、計画書に記載するようにしている。	保護者との連携を更に深める。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーを持つ子どもについては医師の指示を保護者から聞き取り、スタッフ用掲示板に提示している。医師を招き、エピペンの使い方の研修も行った。	データを更新し、支援に携わるスタッフに周知できるように掲示にしておく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例集はまだ作成できていないが、スタッフ会議で周知している。	専門家から指示をもらいながら事例集を作成していく。